

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1101
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	01.地域の特性に応じた組織型農業の振興
施策の方針	組織化による農地集積及び施設・設備の近代化を推進します。 ・大規模化に対応した組織化を進める ・大規模化に対応した設備の充実を進める		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	農地課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【農地の流動化・集積化の推進事業】農地を適正に管理する担い手への集積を図ることを目的として、所有権移転や利用権設定を行っている。中でも農用区域内農地については、農業経営基盤強化促進法に基づく農地中間管理機構を介した売買につなげるなど、売り手、買い手ともに有利な制度を活用した適正な農地管理に努めている。また、住民の生活上必要と認められるものについては、農地法に基づく農地転用の許可を行っている。 ・新規就農者をはじめ農業の担い手に対し、各種支援策の周知、啓発、経営相談など各種相談、経営改善計画等のフォローアップを実施した。又、認定農業者再認定計画相談会については、新型コロナウイルス感染症の影響により、個別相談にて対応を行った。(令和2年度実績 23件) ・地域営農組織法人(東網道、北鹿野)に対し、農地課と連携を図り、農地管理機構事業の契約手続きなど、農地集積に係る支援を行った。※集落営農法人数：6法人(令和2年度末) ・集落営農法人に対し、規模拡大、省力化、低コスト化に必要となる農業機械導入の支援を行った。(令和2年度集落営農法人 野津南 田植機導入)
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	農地の流動化・集積化の推進事業	0	農地課	農地集積率(%)	52	68	87	88			80	A
2	担い手育成総合支援協議会業務(担い手育成総合支援協議会(担い手支援センター)の機能強化)	540	農業振興課	認定農業者再認定計画作成相談会開催回数(回)	3	3	2	0 (個別相談)			3	B
3	集落営農組織法人化推進事業	8,280	農業振興課	農事組合法人の設立数(法人)	4	4	6	6			7	B
4	近代化施設・設備導入支援事業	909	農業振興課	事業活用農事組合法人数	1	0	1	1			5	B

5											
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

【評価指標】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の流動化・集積化の推進事業については、法令どおりの業務であり、特に課題はない。 ・ 集落営農法人組織の高齢化が進み、人材不足などの課題解決のため、組織の在り方が課題である。法人の組織強化はもとより、経理等を行う人材の確保をはじめ、雇用を伴う経営を意識した組織運営が必要。 ・ 補助事業を活用した農業機械の導入等の支援策の情報提供。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の流動化・集積化の推進事業は、申請に対して遅滞なく事務処理を行う。また、現在契約中の農地貸借についても農地中間管理機構を介した貸借につないでいく。 ・ 集落営農法人が現在6法人が組織（令和2年度末）されているが、スケールメリットを活かした経営規模への拡大、収益性の高い新規作物の導入支援など法人経営の多角化を図り、将来的には、統合を含めた広域的な組織の再編を進める。 ・ 集落営農法人における規模拡大、省力化に向けた農業機械の導入など補助事業を活用し支援を行う。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>B</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1102
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	02.豊かな営農環境の保全及び農業関連施設の近代化
施策の方針	<p>営農条件の向上を目指した基盤整備や土づくりを進めるとともに、豊かな農業生産の環境づくりとしての田園・里山景観の保全・育成を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上のための農業基盤の強化を進める 		

担当部署	主管課	農地課
	関係課1	農業振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【土地改良整備事業（国・県）】 農業生産基盤の整備を進める。県営氷川下流地区かんがい排水事業（氷川大堰改修）が令和2年度で完了。県営竜北地区湛水防除事業については継続して実施。 ・【和鹿島地区海岸保全事業】 台風・津波・高潮・波浪等による災害、海岸浸食に対して人命や農用地を守り、国土の保全を図るため、県営事業の実施に係る地元との連絡調整を行う。平成30年度で事業完了した。 ・【土地改良施設維持管理事業】 農業生産基盤となる土地改良施設（用排水機場、農道、用排水路）の機能の保持と耐用年数を確保するため、定期的な整備補修等による適正な維持管理を行う。若洲排水機場主ポンプ（1号）非常用発電装置分解整備（適正化40期生）が令和2年度で完了した。 ・【団体営農業農村整備事業】 農業効率向上のため、区画狭小、排水不良、農業用水の不足など生産基盤上の課題について、きめ細やかに対応する。事業内容により定率又は定額の国庫補助あり。令和元年度で新田、鹿島、野津地区整備事業が完了した。 ・【農道水路維持管理事業】 用排水路及び農道の修繕等の維持補修について、必要性和緊急性を加味しながら随時計画を策定し実施する。 ・【耕作放棄地対策事業】 農地法第30条の規定による利用状況調査の結果、現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地等については、所有者等に対して通知を行い、解消若しくは農地中間管理機構等への貸付を促す。担い手による放棄地解消を推進する。 ・エコファーマーの加入促進について、県と連携を図り普及、啓発を行った。 ・攻めの園芸生産対策事業により、梨の強化棚の導入を行い台風などの自然災害に強い産地づくりはもとより、農業経営の安定が図られた。（1件） ・産地パワーアップ事業により、ブロッコリー生産においてトラクター、野菜移植機などの農業機械を導入することで、規模拡大、契約販売率の向上により、農業経営の安定化が図られた。（1件） ・農業用ハウス強靱化緊急対策事業により、ハウスの補強やさび止めを行うことで、台風など自然災害による被害防止（軽減）を図った。（1件） ・強い農業・担い手づくり総合支援事業により、露地野菜の生産において、トラクターなどの農業機械を導入することで農業者（生産者）の経営基盤の安定につながった。（4件）
------------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	土地改良整備事業(国・県)	93,296	農地課	県営氷川下流地区かんがい排水事業(氷川大堰改修)整備率(%)、県営竜北地区湛水防除事業整備率(%)	8.8、 20.8	63.5、 26.2	68.0、 33.1	100、 35.4			100、 100	A
2	和鹿島地区海岸保全事業	0	農地課	海岸保全整備率(%)	99.6	100	—	—			100	A
3	土地改良施設維持管理事業	4,278	農地課	若洲排水機場主ポンプ(1号)・非常用発電装置分解整備(適正化40期生)率(%)	53.9	69.3	93.4	100			100	A
4	団体営農業農村整備事業	236	農地課	新田・鹿島・野津地区(事業費ベース)※計画はR1年度まで(%)	6.8	65.6	100	—			100	A
5	農道水路等維持事業	3,850	農地課	適正な維持管理	実施	実施	実施	実施			実施	A
6	耕作放棄地対策業務	0	農地課	耕作放棄地面積(m ²)	1,036,835	1,086,037	1,112,338	1,057,443			500,000	C
7	土壌改良指導事業・環境保全型農業(土づくり、廃プラ、持続的農業)事業	0	農業振興課	エコファーマー加入人数(人)	291	317	269	137			400	C
8	農業施設・農業環境の整備	26,132	農業振興課	事業実施主体等の数(件)	8	9	8	7			3	A
9												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> 農業基盤整備事業については、概ね順調に事業が進んでいる。 耕作放棄地については、後継者不足の問題もあるなど、なかなか解消が進まない。特に中山間地は年々増加傾向にある。 環境保全型農業について、一定の取組みはあるものの、小規模農業者のエコファーマーへの加入が進んでいない。また、離農や更新されない場合があるため加入者が減少傾向にある。 農業用機械や農業用施設を整備をする補助事業については、事業の採択基準が高くなってきており、採択基準をクリアすることが厳しくなっている。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> 農業基盤整備事業については、引き続き事業を実施していく。 耕作放棄地については、農用地区域外農地の非農地判断を行うことと併せて、解消に対する有利な補助事業をPRするなど改善に努めていく。 エコファーマーへの加入について、小規模な農業者へ加入を促進するとともに、各生産部会において、組織的な取組みを推進する。 農業用機械や農業用施設を整備をする補助事業については、各種事業の情報を得て利用できる事業を検討、準備をする。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1103
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	03.農業経営の安定化の推進
施策の方針	農業経営面での強化・安定化を図るための支援を総合的に進めます。 ・経営安定化のための支援を進める ・経営安定化のための指導及び研修機会を充実させる ・生産組織の育成		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策事業では、農家組合長会議や地区座談会において、制度説明や情報交換を行った。また、事業内容を周知するため、パンフレットを各農家へ配布した。 農業収入安定化事業では、農業共済組合が行う共済事業の内、施設園芸、果樹、家畜共済に対し各農家の共済掛金の支援を行った。また、令和2年度から、災害による収入減少だけでなく、価格低下など不測の収入減少にも対応する収入保険に対する補助を拡充した。 農産物の販売強化については、新型コロナウイルス対策事業として、テレビCMや特別番組の制作、放映などにより、農産物のPRを行った。また、八代地域農産物PR事業において、新たに「トマト料理のスタンプラリー」を開催することでトマトの効果的なPRを行った。 い草の生産体制の強化及び畳表の産地維持を目的に、い草移植機など専用機器の導入の支援を行った。移植機（2） 苗処理機（4） カセット（100） 有害鳥獣による被害防止対策として、電気柵などの防護柵の設置や捕獲活動の支援を行った。 各種研修会、先進地視察研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。 経営改善、後継者育成では、肥後銀行との包括連携協定に基づく事業として「担い手塾」を開催し、経営を意識した農業経営について講義を行った。 J A の生産部会等への組織育成費・担い手育成費の助成を行っており、生産部会の活動推進に寄与している。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	経営所得安定対策事業	3,684	農業振興課	申請率(申請戸数/該当戸数)(%)	89	87	86	97			90	A
2	高生産性農業育成事業(農業収入安定化事業、くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業)	27,973	農業振興課	農業共済加入率(%)果樹、園芸	69.5、 96.6	61.4、 95.7	61.7 92.0	61.4 92.0			74.5、 99.0 (H30)	B

3	農産物の販売強化	7,046	農業振興課	PR等パンフレット作成回数(回)	0	1	0	2			1	A
4	いぐさ・畳表生産体制強化支援対策事業	4,225	農業振興課	い業機械導入の推進	実施	実施	実施	実施			実施	A
5	有害被害対策事業(有害鳥獣被害防除柵等設置事業、有害鳥獣緊急捕獲活動支援事業、鳥獣被害対策協議会運営事務)	6,430	農業振興課	鳥獣被害金額(千円)	23,378	22,375	22,820	22,201			13,517	B
6	経営研修機会の拡充	0	農業振興課	研修会への参加及び先進地視察研修の実施回数(回)	3	3	3	中止			4	B
7	経営改善・後継者育成	223	農業振興課	経営改善・後継者育成セミナー開催数(回)	0	0	2	3			1	A
8	生産組織団体育成事業	1,350	農業振興課	組織育成費補助金交付団体数(団体)	13	13	13	12			13	A
9												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策事業については、需要に応じた主食用米の作付面積の減少が図られたが、WCS用稲への移行が集中し、圃場の地力低下が懸念され、野菜など裏作への影響が心配される。 従来の農業共済は、台風など自然災害に対応した補償であるため、価格の低下など不測の収入減少に対応した補償ができない。 研修については、移住就農者や、新規就農者等が参加しやすいよう情報提供する仕組みが必要。 山間部でのイノシシなどの獣による被害は、防護柵の設置や捕獲により減少傾向にあるが、平坦地の露地野菜を中心にカモ類など鳥による被害が拡大している。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策事業については、課題解決に繋がる産地交付金となるようJAとともに検討していく。 収入安定化事業に、価格の低下など不測の収入減少に対応する収入保険制度を拡充し、経営規模にあった共済加入を推進する。 研修については、参加者が少ないので魅力的な研修を企画するとともに、プッシュ型の研修会も検討していく。 鳥獣被害対策では、防護柵の設置や捕獲を継続的に取り組むとともに、被害が拡大している鳥の被害対策として、県、JA、市町で構成する八代地域農産物鳥類被害防止対策連絡協議会を中心に、関係機関で連携し地域ぐるみで対策を講じていく。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1104
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	04.農地を守り農業を支える人材の育成
施策の方針	農地を守り農業を支える人材の育成を図るとともに、住民参加による農地保全活動を推進します。 ・新規就農者の育成・確保を進める ・住民参加による農地や農村環境の保全や農作業支援の仕組みづくり		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	農地課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就農相談並びに新規就農者への相談は随時行っており、補助事業等の周知は町ホームページ、メール等で行っている。また、フォローアップ研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により、個別での対応を行った。 ・ 次世代人材投資事業（開始型）では、サポート体制を整備し、経営、技術、資金、農地の分野から助言、指導を行った。 ・ 青年農業者クラブや女性活動グループの組織育成を目的に支援を行った。 ・ 観光農園・農業体験・漁業体験の推進では、新型コロナウイルスの感染拡大により、ツーリズム事業の活動が制限され、参加者数へ影響した。 ・ 【多面的機能支払交付金事業】 農業農村の持つ多面的機能（国土の保全、自然環境保全、良好な景観形成）の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援する。多面的機能支払交付金事業には、以下のものがある。 <ul style="list-style-type: none"> ○農地維持支払 …………… 水路の泥上げ・農道の草刈り等 ○資源向上支払（共同活動） … 植栽・水質保全等の農村環境活動 ○資源向上支払（長寿命化） … 水路、農道等の補修や更新
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	農業後継者育成事業、新規就農者支援、家族経営協定事務(新規就農者、担い手育成対策事業)	0	農業振興課	フォローアップ研修開催回数(回)	2	3	2	0			3	B
2	農業次世代人材投資事業	32,376	農業振興課	農業次世代人材投資事業(経営開始型)の新規採択者数(経営体)	2	3	1	5			5	A

3	青年農業者クラブ育成支援事業	40	農業振興課	支援団体数(団体)	2	2	1	1			2	B
4	女性活動グループ育成事業	108	農業振興課	支援団体数(団体)	1	1	1	1			1	A
5	農家の働き方改革	0	農業振興課	農業経営改善計画の再認定率 (再認定申請件数/再認定対象 件数)(%)	91	83	78.4	67.3			80	B
6	観光農園・農業体験・漁業体験の推 進	0	農業振興課	ツーリズム参加人数(人)	1,834	2,497	2,122	488			2,070	B
7	多面的機能支払交付金事業	117,506	農地課	取組面積(ha)	753	1,201	1,382	1,411			1,411	A
8												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規就農者、担い手育成対策事業】新規就農者の経営安定に繋がる支援が必要。 ・【農家の働き方改革】担い手の不足による離農や経営規模の縮小等により、経営改善計画の再認定件数（更新件数）が減少傾向にある。 ・【観光農園・農業体験・漁業体験の推進】ツーリズム事業のあり方について整理する必要がある。 ・【多面的機能支払交付金事業】事業に取り組むための保全隊を組織する地区も増加しているなど、地区独自での基盤整備に取り組む意識向上が見られる。未結成の地区もあるため、事業のPRなどを行い更なる拡大が必要である。事業費もある程度確保できており、積極的な活用が望まれる。
今後の 施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規就農者、担い手育成対策事業】新規就農者へのサポート活動の実施。 ・【農家の働き方改革】JAなど関係機関と連携し、経営相談など積極的にフォローアップを実施していく。 ・【観光農園・農業体験・漁業体験の推進】ツーリズム事業のあり方について整理する必要があるため、しっかりとした議論を行う。 ・【多面的機能支払交付金事業】現在30地区で広域協定を締結して効率的な事業推進が図られている。組織結成が望まれる地区へ前向きな検討を促し、町内全域における積極的な事業活用に努める。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合 評価	B
----------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1105
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	05.住民参加による地産地消及び都市部や国内外での販路拡大の推進
施策の方針	<p>地域ぐるみで地産地消を進めるとともに、国内の都市部や海外への積極的な販路拡大の取り組みを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進 ・販路拡大の取り組みを進める ・物産館や物産展を活用した流通システムの確立・販路拡大を進める 		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	地域振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【地産地消の推進】直売所での地域農産物の取扱は、概ね8割程度で推移している。 ・【農特産物販売促進対策事業】八代地域農特産物PR事業を活用し、新たな取り組みとしてトマト料理のスタンプラリーを開催し、トマトのPRを行った。 ・【販売戦略等助成事業】新型コロナウイルス感染症の影響もあり活用がなかった。商工観光振興協議会を通じて、商工業者などの活性化及び販売戦略や観光の推進につながる活動を支援している。 ・【各種メディアを活用したPR事業】新型コロナウイルス対策事業として、花き、イ草、氷川産農産物について、各種メディア（テレビ、HPなど）を活用し幅広くPRを行った。また、地域おこし協力隊の登用により、SNSによる農産物のPRが活発に実施できた。 ・【物産展の開催によるPR・交流促進】新型コロナウイルス感染症の影響により物産展の開催は行えなかったが、シトラス観光圏事業による特産品PRを目的としたスタンプラリー等が実施された。 ・【販路拡大事業】農産物のPRとして、販売フェアを開催しているが、氷川町の農産物に対する評価は高くなっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1回のみ開催であった。 ・【アグリビジネスセンター活用活性化事業】（有）まちづくり振興会において、アグリビジネスセンター事業を活用したHACCP導入に取り組み、衛生、品質管理面において、習熟度が増し製造において、質量ともに安定した。また、地域おこし協力隊事業の一環で、レンコン、晩白柚を使用した加工品の開発、製造において、アグリビジネスセンターを活用した。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	地産地消の推進	0	農業振興課	域内農産物の割合(%)	90	75	56	82			90	B

2	農特産物販売促進対策事業	945	農業振興課	販売促進回数(回)	3	3	2	2			3	B
3	商工観光振興協議会(販売戦略等助成事業)	0	地域振興課	販売戦略等助成金事業(件)	0	1	1	0			3	C
4	各種メディアを活用したPR事業	6,686	農業振興課	SNS・HPへの記事掲載件数(件)	3	3	3	4			5	B
5	物産展の開催によるPR・交流促進	0	地域振興課	物産展の開催(出店)参加回数(回)	1	1	0	0			3	C
6	販路拡大事業(特産品販売フェア、農産物PR事業)	585	農業振興課	販売フェアにおける販売実績(千円)	1,800	3,792	2,549	956			2,300	B
7	アグリビジネスセンター活用活性化事業	0	農業振興課	アグリビジネスセンターの利用件数(件)	4	1	1	2			5	B
8												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【販売戦略等助成事業】助成制度を設けているが、活動を希望する団体等が少ない。 ・【物産展の開催によるPR・交流促進】シトラス観光圏事業以外の出店箇所の確保を行う必要がある。 ・【販路拡大事業】道の駅竜北の認知度は高いが、氷川町の認知度は低いため、販売フェア等で町のPRが必要。 ・【アグリビジネスセンター活用活性化事業】新商品開発や販路拡大などアグリビジネスセンターの事業等が認識されていなく、活用がされていない。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【販売戦略等助成事業】広報紙掲載や商工会、観光物産協会等に周知を図る。 ・【物産展の開催によるPR・交流促進】物産展の開催(出展)については、氷川町観光物産協会や出展者と協議、連携を図り、出展箇所の確保及び出展者の同意取り付けを行い、出店の参加機会の拡大を図る。 ・【販路拡大事業】販売フェアで町のPRと併せて、事業が継続できるよう販売者のメリットも確保する。また、会場が固定化しているため、幅広くPRできるよう新たな会場での開催を検討する。 ・【アグリビジネスセンター活用活性化事業】広報紙やHPを活用し、アグリビジネスセンターの施設概要を含め、事業内容や活用事例を紹介するなどし、利用促進を図る。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1201
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	01.地域に密着して暮らしを支える商工業活動の推進
施策の方針	個店の魅力向上のための研修機会の充実とサービス機能強化の取り組みを進めます。 ・ 商業サービスを高めるための支援を充実する ・ 商業地の活性化の推進 ・ 地域に密着する企業の誘致		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【商工会育成事業・中小企業振興事業】 商工会の各種事業への補助を行い、商工業者への支援を実施している。 ・ 【商工業者経営安定化支援】 商工業者の運転資金などへの融資に対する利子の補給を実施している。 ・ 【人材の確保・育成】 商工会において補助事業を活用し、若手後継者を対象に専門家を招いてのセミナーの実施や個別相談指導を行い、経営力向上の支援を実施している。今年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により例年のように開催できていない。 ・ 【創業支援】 空き店舗を活用した事業所の新規創業、現店舗等のリフォームや機械器具の購入による事業拡大を町補助により支援している。 ・ 【企業誘致活動】 宇城氷川スマートインターの隣接地において、工場の新設が1件行われている。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	中小企業振興事業	10,450	地域振興課	氷川町プレミアム付き商品券使用率(%)	99.78	99.67	99.76	99.85			100	A
2	商工会活動育成事業	679	地域振興課	補助金の縮減(千円)	970	1,143	714	679			950	B
3	商工業経営安定化支援事業	1,334	地域振興課	助成件数(件)	77	67	87	68			0	B
4	人材の確保・育成	400	地域振興課	育成セミナーの受講者数(人)	46	67	53	27			60	B
5	起業に対する支援	2,360	地域振興課	創業支援事業活用件数(件)	0	1	2	2			5	A
6	空き店舗を活用した店舗展開事業	1,966	地域振興課	補助事業実施件数(件数)	11	3	6	3			25	B
7	企業誘致活動	0	地域振興課	企業誘致件数(件)	0	0	0	1			2	A

8												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【商工会育成事業】令和3年度も引き続き電気代及び修繕費に補助を実施するが、商工会において設備のLED防犯灯への交換も検討されているので、令和4年度予算へ適用されるよう準備する。 ・【企業誘致活動】企業誘致については、大きい規模の工場等の誘致には一定の用地が必要となる。空き店舗等を活用した貸しオフィスなども需要が見込まれる。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【商工会育成事業】令和3年度中に商工会と協議を進める。 ・【企業誘致活動】宇城氷川スマートインターチェンジを活用した企業の誘致も引き続き検討するとともに、規模は小さくなるが、空き店舗等を活用した貸しオフィス、シェアオフィス、ワーケーション等を検討し、地域課題解決等に活用していく。

【評価指標】

A:目標に向かって順調に進んでいる
 B:目標に向かってある程度進んでいる
 C:目標に向かってあまり進んでいない
 D:目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標:数値目標
 総合評価の目標:施策の方針

総合評価	B
------	---

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の実施により、水産資源が生育、増大するものの、大雨などの自然災害による淡水化により、水産資源に大きな影響がある。 ・ 水産資源を回復・増大していくためには継続した放流事業等が必要。 ・ 漁船の出入り容易にするため、ヘドロの浚渫（除去）など環境整備が必要であるが、莫大な費用を要する。 ・ 浅海化や自然災害により漁業活動に支障をきたしているが、航路の浚渫には、莫大な費用を要する。
<p>今後の 施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産資源の回復、増大を図るため、継続的な事業を実施し、併せて事業効果の検証を行っていく。 ・ 浅海化している漁船の係留場所や航路の浚渫について、今後、漁協とも検討していく必要があるが、事業の実施にあたり、莫大な費用を要するため、国県への要望活動も併せて実施していく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>B</p>
------------------	----------

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【異業種交流・研修・研究活動支援事業】農業者・商工業者等の異業種活動の機運を高めることができず、支援体制が出来ていない。 ・【テーマ型まちづくり活動支援補助金制度】具体的な事例が少なく、周知が難しい。多くの地区やグループが、テーマ型まちづくりに取り組まれるように、住民のアイデア創出の助言、周知啓発が必要。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【異業種交流・研修・研究活動支援事業】ひかわツーリズムクラブや立神峡公園と農商工業者を巻き込み、連携と支援体制の確立を図り、交流・研修・研究活動を支援していく。 ・【テーマ型まちづくり活動支援補助金制度】行政区活動活性化交付金と併せ周知を行う。令和2年度に補助金を活用した事業実施を検討する地区があり、実施に向けて助言等協力を行う。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>C</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1301
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	01.ツーリズム推進のための企画・運営体制と拠点施設の充実
施策の方針	<p>町内の多様な魅力を活用したツーリズム事業推進のための目標づくりと体制の強化、拠点機能の充実を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氷川町のツーリズムの基本方針を確立する ・ツーリズム拠点環境の充実 		

担当 部署	主管課	地域振興課
	関係課1	農業振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】 ツーリズムのあり方の検討、民間主導への移行など発展的な方向性及び具体的な取り組みを示す。農業体験イベントの開催を支援しているが、新型コロナウイルス感染症対策の拡大により未実施のイベントもあった。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材育成の推進】 ひかわツーリズムクラブの組織強化とコーディネーター機能の強化を図る。既存団体・組織を通じてツーリズムの担い手となる人材発掘の新プログラム創出のための必要なノウハウを学ぶための機会をつくり、インストラクターとなる人材を育成する。 ・【道の駅周辺環境整備事業】 ツーリズム拠点環境の充実を図るため、道の駅周辺農地の活用方法を検討。 ・【エコツーリズム環境（立神峡公園）の充実】 立神峡公園は里山の自然や昔ながらの生活を体験できる公園として、町内小学生の体験学習や町外者の利用に活用されている。また、立神峡公園は、指定管理者による適切な施設管理・環境保全に努めている。
------------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ツーリズム事業の推進	960	地域振興課	交流人口の増加(参加者数) (人)	800	870	630	488			1,200	C

2	ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進	2,411	地域振興課	会員数の増加(人)	26	25	26	26			50	B
3	観光事業を推進する団体の組織再編	0	地域振興課	組織再編	未実施	未実施	未実施	未実施			実施	B
4	「道の駅」周辺環境整備事業	0	農業振興課	道の駅周辺農地を活用した整備	未実施	未実施	未実施	未実施			整備完了	C
5	エコツーリズム環境(立神峡公園)の充実	0	地域振興課	連携事業数(件)	0	未実施	未実施	未実施			2件以上	C
6												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】新型コロナウイルス感染症対策並びに、会員の高齢化及び新規会員の獲得数が少なく事業拡大が難しい状況にある。会員の生業とツーリズム事業が双方にメリットとなるような仕組みが必要である。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進】ひかわツーリズムクラブとの連携無しには事業遂行は難しいため、クラブ会員の増加、若年化が課題である。会員の生業とツーリズム事業が双方にメリットとなるような仕組みが必要である。 ・【道の駅周辺環境整備事業】ツーリズム事業のあり方についても整理、検討する必要がある。活用方法の検討と併せて、用地と財源確保が課題となる。 ・【エコツーリズム環境（立神峡公園）の充実】立神峡公園指定管理者で体験学習などを実施しているが、連携事業には至っていない状況である。地域ぐるみでの活動に繋げるための素材や人員が不足している。 ・【観光事業を推進する団体の組織再編】組織再編にあたっての観光物産協会内での意見統一が出来ていない。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】クラブ員の獲得、若返りと農泊や移住を見据えた長期の農業体験などのプログラムや施設の充実化を図る。将来的には民間主導に移行する。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進】会員数の増加を図るため、会員の生業とツーリズム事業の双方にメリットがあるような仕組みを考え、新規会員を獲得したい。 ・【道の駅周辺環境整備事業】類似施設等の活用事例等の情報収集や、財源確保の方策等を検討していく。併せて、ツーリズム事業のあり方について整理、検討する。 ・【エコツーリズム環境（立神峡公園）の充実】エコツーリズム実施に向けて地域の特色の再確認や、里山を活用した地域の協力を得たうえで、観光客へのPRを検討する。JRウォークをはじめとした他団体事業との連携を充実させ、エコツーリズム環境の拡大に努める。 ・【観光事業を推進する団体の組織再編】意見統一のための情報収集及び資料作成を行い、各種団体間での協議や検討を行う。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	C
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1302
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	02.ツーリズム展開にむけた魅力的なプログラム開発及び環境整備の推進
施策の方針	<p>町内の多様な魅力を活かすツーリズムの担い手と資源環境の充実を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツーリズム推進のため環境整備やプログラムの充実を図る 		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	生涯学習課
	関係課2	農業振興課
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【古墳歴史学校の開催】 歴史・古墳ツーリズムのプログラムとして、歴史や古墳を学ぶ体験学習や歴史の学習を行い、体験学習等ができる拠点を設け、学校教育や生涯学習などに利用していく予定である。 ・ 【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート of 環境整備事業】 町内の文化財の活用並びに保存を図るため、定期的に指定文化財の環境整備（草刈り等）、散策ルートの整備を行う。また、指定以外の町内遺跡や文化財を把握し散策ルートを計画する。 ・ 【ブルーツーリズムの推進】 ブルーツーリズムの基礎となるアサリ等の水産資源の回復、増大を目的に覆砂事業（H30）や水産基盤整備事業を実施し、水産資源の生育が確認されていたが、令和2年7月豪雨による淡水化によりアサリなどの水産資源が全滅した。その後の生育等について、漁協と連携し水産資源の回復状況の調査等を実施した。 ・ 【氷川ツーリズム事業】 交流人口を増やし、町の魅力を広くPRするため体験型のツーリズム事業を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため交流人口が減少した。 ・ 【やつしろツーリズム事業】 未実施
--------------	---

【事業名称、指

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	古墳歴史学校の開催	0	生涯学習課	リーダーの数(人)	0	0	0	0			10	C
2	歴史・古墳ツーリズム、散策ルートの環境整備事業	2,193	生涯学習課	草刈等の実施カ所(カ所)	17	10	17	18			20	B
3	ブルーツーリズムの推進	0	農業振興課	プログラムの作成	未作成	未作成	未作成	未作成			作成	C
4	氷川ツーリズム事業	0	地域振興課	町外参加者数(人)	550	600	670	148			800	B

5	やつしろツーリズム事業	0	地域振興課	連携事業の実施数(回)	0	未実施	未実施	未実施			2	C
6												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【古墳歴史学校の開催】歴史や古墳についての専門的な知識をもった講師の育成等が必要である。 ・【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート環境整備事業】散策ルートの定期的な草刈り並びに看板の更新等を行っていく必要がある。 ・【ブルーツーリズムの推進】覆砂事業や水産基盤整備事業の実施により、アサリ等の水産資源の生育は確認されるものの、大雨等の自然災害により水産資源が全滅するなど水産資源の維持、確保が大きな課題である。 ・【氷川ツーリズム事業】ひかわツーリズムクラブとの連携無しには事業遂行は難しいと思われる。また、クラブ会員の増加、若年化を図り新規の体験型事業の創出など事業の再構築が必要である。 ・【やつしろツーリズム事業】八代市、芦北町との定住自立圏での協議が必要である。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【古墳歴史学校の開催】歴史や古墳についての専門的な知識をもった講師の育成等が必要である。 ・【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート環境整備事業】草刈りや樹木の伐採を行うことにより文化財を活用した景観と環境を整備する。 ・【ブルーツーリズムの推進】新たな場所での覆砂事業や例年実施している水産基盤整備事業を実施することで、アサリ等の水産資源の回復、増大を図り、併せて事業展開に向けた環境整備など漁協と連携を密にし、潮干狩り等のプログラムを検討していく。 ・【氷川ツーリズム事業】ひかわツーリズムクラブとの連携により新規の体験型事業の創出を行う。 ・【やつしろツーリズム事業】定住自立圏での取組みとして八代市、芦北町と事業の必要性や実現性を協議し、地域体験型のツーリズム事業を進めたい。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和2年度)

施策コード	P1303
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	03.ツーリズム・交流を促進する独自イベントの開催
施策の方針	<p>年間を通じたツーリズムプログラムをイベントと連携して推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツーリズムプログラムと町内各種イベントとの連携を図る ・ 魅力的なイベント実施により交流促進を進める 		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【ツーリズム年間プログラムの推進】 令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントは全て中止となったため、ツーリズムプログラムと町内各種イベントとの連携はできなかった。 ・ 【立神峡里山フェスタなどのイベント開催】 立神峡公園は里山の自然や昔ながらの生活が体験できる公園として、町内小学生の体験学習や町外者の利用に活用されている。 ・ 【各イベント】 令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントは全て中止となった。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R2事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ツーリズム年間プログラムの推進	0	地域振興課	50歳以下の会員の獲得(人)	14	0	1	0			28	C
2	立神峡里山フェスタなどのイベント開催	0	地域振興課	里山フェスタ参加者数(人)	90	未実施	未実施	未実施			200	C
3	観光及び特産品振興に係るイベントの充実	2,510	地域振興課	出店募集イベント回数(回)	3	3	3	中止			3回維持	B
4	ヘラブナ釣り大会	0	地域振興課	大会参加者数(人)	104	83	97	中止			200	C
5	梨マラソン大会	341	地域振興課	梨マラソン大会参加者数(人)	1,870	1,842	中止	中止			1,800	B
6	「道の駅」竜北ウォーキング	45	地域振興課	ウォーキング参加者数(人)	中止	388	290	中止			500	B

7												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

【評価指標】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム年間プログラムの推進】若年会員の更なる獲得。各種イベントとの具体的な連携。 ・【立神峡里山フェスタなどのイベント開催】立神峡公園は指定管理者により適正に管理されているが、独自によるイベントなどの開催までは至っていない。 ・【ヘラブナ釣り大会】和鹿島イチゴPRのイベントとして実施をしているが、県外出荷が主な本ブランドのPRイベントとしての効果は薄い。イチゴ農家としても農繁期での開催であることから、協力が得られにくい。また、参加者も限定的かつ年々減少傾向にあり、事業実施形態の改善が必要。 ・【梨マラソン大会】補助金と参加料金による運営であることから、町の財政に頼った運営となっている。今後継続した実施を行う場合、協賛金を徴取するような体制づくりが必要。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム年間プログラムの推進】若年会員の獲得を引き続き行う。各種イベントとの連携をどのように行うか検討が必要。 ・【立神峡里山フェスタなどのイベントの開催】立神峡独特の里山を活かしたイベントなどで交流が図れるよう指定管理者と協議、検討を重ねる。 ・【ヘラブナ釣り大会】氷川町のイチゴPRイベントとしての事業見直し・新たなイベントの構築。 ・【梨マラソン大会】吉野梨PRイベントとして事業の継続と、協賛金など補助金以外の財源の確保方法を検討する。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>B</p>
-------------	-----------------

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物産館の出荷者が高齢化し、出荷物が減少しているため、出荷物の確保が必要。 ・ 新商品の開発や加工品の安定した製造が可能になったものの、安定した取引先が確保できていないため、売上の向上につながっていない。新規の取引先はもとより、安定した取引先の確保など販路拡大が大きな課題である。 ・ 6次産業推進体制づくりでは、特産品加工センターにおいて、HACCPの導入により環境整備はできたが、事業の推進体制が整っていない。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物産館の品不足対策として、JAルートによる農産物の確保を強化するとともに、近隣物産館と連携を図り商品確保に努める。また、ECサイトなどネット販売を積極的に活用し売上げの向上を図っていく。 ・ フードバレー関連企業や異業種連携による商品開発、販路拡大を進める。また、コロナ禍に鑑み、プロフェッショナル人材活用事業を活用し、積極的な販路拡大を図る。 ・ 6次産業の推進では、施設の有効活用と併せて推進体制づくりを検討していく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>B</p>
-------------	----------